

# 令和6年度帰国・外国人児童生徒に対するきめ細かな支援事業 実施体制（厚木市教育委員会）

現状

日本語指導協力者（13言語34人）派遣（小学校21校、中学校12校）  
言語：英、スペイン、中国、タガログ、ベトナム、ポルトガル、クメール、韓国、シンハラ、タミル、ラオス、タイ、モンゴル  
日本語指導が必要な児童・生徒 391人（日本国籍含む）  
〔派遣申請294人中 287人に派遣（97.6%）〕

## 厚木市 外国籍児童・生徒等 支援事業

課題

- ・年度途中の編・転入する日本語サバイバルレベルの児童・生徒への支援
- ・対応できない言語の人材確保と指導・支援
- ・多文化の受容と適切かつ効率的な指導・支援
- ・日本語能力の適切なアセスメントとそれに応じた支援
- ・国際教室設置校と非設置校のさらなる連携

小学校（23校）・中学校（13校）

国際教室設置校（20校）

教育課程内支援

国際教室非設置校（16校）

日本語指導協力者派遣

日本語指導が必要な児童・生徒

特別の教育課程編成

中学校区グループの連携強化

個別の教育支援計画の作成

教育相談コーディネーターとの連携

ICTの活用

研修及び校内連携の強化

教育課程外支援

日本語指導教室

支援員派遣

希望する外国籍等児童

放課後等補習学習

その他

日本語指導協力者、日本語指導教室支援員、学校との情報共有

担当教員支援

外国籍児童・生徒等  
指導推進部会

ICTの活用

日本語能力のアセスメント

国際教室運営情報共有

特別の教育課程による  
個別指導計画

成果と課題

### ○協議会（推進部会）の開催に関すること

#### 【成果】

・担当者の入れ替わりが多くある中で、国際教室の運営や日本語指導協力者の効果的な活用、指導方法改善等の情報を共有することができた。

#### 【今後に向けた課題】

・国際教室未設置校や新規に設置する学校が、年間を通して指導を充実させるための支援や情報共有のあり方を検討すること。

### ○「特別の教育課程」による日本語指導の実施に関すること

#### 【成果】

・日本語指導が必要な児童・生徒一人一人の状況を把握し、個に応じた指導を計画的に実施することができた。

#### 【今後に向けた課題】

・DLAを基にした適切なアセスメントを実施し、子に応じた指導に生かすことや計画的に指導と評価を行い、指導改善をすること。

### ○日本語指導協力者派遣に関すること

#### 【成果】

・日本語指導協力者の派遣を希望する児童・生徒に対して、安定的な派遣を実施することができた。（97.6%）

#### 【今後に向けた課題】

・年度途中での編・転入で、日本サバイバルレベルの児童・生徒が増加傾向にあり、日本語指導協力者の派遣追加や支援体制のサポートが必要であること。  
・日本語習得及び学習段階等に応じた適切な派遣など、限られた時間等で最大限の効果を生むことができる運営。